



前川 雅志
議員
(政風クラブ)

問

幕別町の高齢化率は毎年増加傾向にある。買い物や通院を考えるとコミバスは大切な施策と思うが、試験運行のコミバスには人影を見ることが出来なかった。このままの本運行に不安が大きく、以下伺う。

- ①11月の実績と評価。
- ②運行費用（購入費、維持費等）と事業主体。
- ③数年前試験運行が行われ、本運行にいたらなかった理由。
- ④本運行する考えか。

町長

①通学者を除いた乗車人数は、総数417人であった。高齢者の方の利用が伸び悩み、認知度を高めることが課題である。

②費用は、コミバス専用の中型バスが約2300万円、5年間の運行経費が約9000万円、6年目以降が約1000万円と試算している。

事業主体は、町が運行主体となる方法と、バス事業者などが旅客運送を行う方法が考えられる。

③費用対効果の観点を考慮すると

<p>問</p> <p>コミバスは本運行するのか</p>	<p>答</p> <p>「費用対効果」「福祉」の観点から検討を進めていきたい</p>
-------------------------------------	---

問

コミバス運行は時期尚早であると判断し、当面は、外出支援サービスなどの拡充を通じて交通弱者対策を進めるべきと判断した。

④今後も、クルマを運転しない高齢者は増加すると予想され、地域公共交通の役割は重要性を増し、「費用対効果」、「福祉」の観点からも導入の検討を進めていきたい。

答

ふるさと寄付について
地方の活性化の観点からも有効なものとして認識している

問

幕別町に思いを寄せ多くの方々から、幕別町ふるさと寄付として毎年多額な寄付をいただいている。運用状況等を伺う。

①過去の寄付の実績。

②これまでの事業と事業主体。

町長

①平成20年10月から平成24年11月末までの合計で、101件、1362万1000円の寄付を受けている。

②条例上、寄付金の管理運用は、



コミバス札内線（ふるさと館前）

基本的には「幕別町まちづくり基金」に積み立てて管理・運用することになっている。

これまでに、具体的な事業の財源として充当した経過はないが、有効活用を図っていきたい。

問

電力の確保について

答

町としてもできる限りの節電に取り組んでいきたい

問

11月に発表された道の「北海道・冬の安全プログラム」には停電対策は盛り込まれていないが、引き続き節電を求めているものがある。以下伺う。

- ①夏の公共施設の節電実績。
- ②公共施設の節電目標。
- ③家庭や各産業の節電にどう取り組むか。
- ④20年後のメガソーラー施設への規制。

町長

①節電が困難な上下水道施設を除く公共施設では、6・8%の節電実績である。

②夏同様の7%の節電目標を設定し、できる限りの節電に取り組んでいきたい。

③広報「まくべつ」12月号で「今冬の節電のお願い」と題し、7%以上を節電目標とし周知を図った。

④工業団地は撤去費用相当額の補償金を徴収するが、自社用地に建設する場合は、企業の社会的責任を果たしてもらうことに期待せざるを得ない状況にある。

再質問

①利用者のターゲットを絞り、路線・時間帯・料金等の検討が必要では。

②自然火災時の電力バックアップ体制は。

答

①いただいた意見等も含めながら、検討をさせていただきたい。

②北電からの電力は2系統で供給されている。役場には、現在使用している電力の6割程度を供給できる発電機を備えている。